

アイスウェッジポリゴン

ツンドラポリゴンまたはアイスウェッジポリゴンとして知られている、地表のマイクロレリーフ模様は、永久凍土の特徴です。この独特な幾何学模様は、地面を徐々に引き裂いていく縦方向のアイスウェッジによるものです。アイスウェッジは、融雪水が地面の割れ目に侵入し、地下で凍る過程で大きくなります。大きくなるにつれ、周囲の土には圧力がかかり、それが上に押し上げられた結果、いくつかのポリゴンが形成されます。上から見ると、亀の甲羅に似た模様が確認できます。アイスウェッジポリゴンは、北米北極部やシベリアなどの継続的な永久凍土地域に広がっています。

鹿追で実施された地質学的調査による地層の断面図や雨でずぶ濡れの耕作地帯の航空写真からは、アラスカのツンドラ地帯と似た特有の模様が確認できます。このような発見は、十勝平野の一部を含む十勝鹿追エリアで、かつて永久凍土が今以上に広がっていたことを示唆しています。今日、この辺りの永久凍土は、然別湖周辺の山々に点在するのみです。その減少は、最終氷河期以降、気候がいかに変化したかを物語っています。